

戦後の夏、七十四回目。



7月12日、城南中学校と城北中学校で、平和学習の一環として、阿智村にある満蒙開拓平和記念館事務局の三沢亜紀局長を講師に迎え、満蒙開拓という歴史について、講演会が開催されました。



戦争から70年以上が経ち、引揚者の高齢化が一段と進む中、長野県からも多くの人々が送り出された満蒙開拓。三沢局長から「満蒙開拓は、あまりに悲惨な体験であったこと、同じ村の中で送り出す側と送り出される側が存在し、戦争という加害の歴史」という点が、多くの開拓団をだした長野県だからこそ向き合うことの難しい歴史となっている。」と説明がありました。

城北中学校では、講演後、平井颯馬君から「農業開拓団が、なぜ北東沿岸部へ配備されたのか。」福澤祐香さんから「軍隊が撤退する時に、なぜ開拓団には知らされなかったのか。」と質問が出され、三沢局長からは、本当の情報が得られない恐ろしさが語られました。そして「人類が犯した重大な過ち、自分の中にある脆さに気づくこと、満蒙開拓の歴史が語り掛けてくるものとは何か、これから私たちはどう生きるのか、歴史を振り返り、考えることが大切」と話がありました。

広島平和学習事業内容
■8月5日
 広島平和記念資料館見学
 被爆体験講話、平和公園内見学
 (平和の灯、原爆ドーム、平和の鐘、原爆の子の像)
■8月6日
 原爆死没者慰霊式・平和祈念式参列
 原爆供養塔で折り鶴を捧げる

城北中学校 田中昭道校長は生徒に向け「何が正しくて何が間違っているのか、自分ならどうするか、考えられる力をつけていってほしい」と語りかけ、講演会は閉じられました。

人類史上初の原子爆弾が広島に投下され74年。今年も8月6日の広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式に、城南中学校、城北中学校から10名の生徒が参加します。

世界中の人が「平和」を願う平和祈念式で、参加生徒が感じた思いや決意は、次号本編でご紹介します。

いきいき男女共同参画 いよいよ男女共同参画 いよいよ女性センター未来文化講演会より



茅原ますみ氏

6月29日市公民館講堂において元テレビ東京アナウンサーの茅原ますみさんを講師に「スイッチの切り替えが大切く仕事と家庭の両立を考える」と題して講演会が開催されました。要旨をお知らせします。

■私はテレビ東京へアナウンサー志望で入社したが、まず、報道部に配属され、政治取材の記者となった。子どもが生まれてからアナウンサーになるというめずらしい経歴を持つている。■平成3年1月、報道記者をしている時に、当時、社会党の党首だった土井たか子さんを取材する中で湾岸戦争直前のイラクに行った経験がある。帰国後に戦争になり、自分の泊まっていたホテルもめちゃくちゃになっ

ていた。世界は自分達から遠いところにあるのではなく近くにあるということを実感した。■夫はフジテレビで「とくダネ!」に出演している笠井信輔アナウンサー。3人の男の子の育児を経験している。■言葉というのは非常に大事で、自分の子ども3人を「第一王子、第二王子、第三王子」と呼んでみたら、どんな事が起きて、「王子」だからと思うと怒りに任せて子どもを叱ることもなくなった経験がある。■子育てについて、父親には赤ちゃんの頃から「だっこ」をしてあげてほしい。そうしないと一生「だっこ」できなくなる。里帰り出産は父親が子育てを一緒にしていく意識を薄めてしまうので私は反対だ。■「しあわせ」という言葉、言葉には力がある。「しあわせ」と口に出してみることで幸福は実現すると思う。子どもの前で「しあわせ」とつぶやいていたら家族皆で言いあえるようになった。皆さんも是非試してほしい。▽講演の中から、ほんの一部をご紹介します。

みんな仲良し ときわつ子

常盤保育園は、全園児34名の小さな保育園です。小規模園の良さを生かし、他のクラスのお部屋を行き来し、年齢の枠を超え楽しくかわりあえる保育園です。

保育園の周りが畑や田んぼに囲まれていることから、『カナヘビ・ゲンゴロウ・カエル』などの小動物を毎日誰かが持参し、図鑑を広げては興味を深めています。

また、常盤地区にしかない珍しい『めだか』も、子どもたちの大切な宝物です。自然、地域の方、友だちなどたくさんのお友達に恵まれ、ふるさとの良さを毎日体験し生きる力を存分に育んでいる子どもたちです。



子どもの気づきに教えられて とがり保育園長 増山恵美子

初夏になると保育園では水・どろんどろん遊びが始まります。

ある日、3歳児のA君は友達とトランプになり、クラスの友達を外へ出かけても部屋の隅で泣いていました。

泣き止んだ頃、訳を聞き、庭へ誘いますが、一旦すねてしまったA君はきつかけがつかめず廊下から友達を見たり絵本を読んだりして過ごし、どろんどろん遊びはしませんでした。

お昼になり、皆が給食の用意をする中、またA君はぐずりだしました。「食べない!」と絵本コーナーへ入ってしまつた彼を見たMちゃんが、「お庭へ行かれないからじゃやない?」と私に言いました。3歳の子が、友達の泣く姿や表情から相手の心情を察し、言葉で伝えてくれたことに驚きました。

1歳児クラスでは日々泣き声が聞こえます。眠い、お腹すいた、使っていたおもちゃがなくなった、ママに会いたい、言葉で言えない

歳さんは何でも泣いて訴えます。すると日ちゃんが走り寄り、泣いている子の頭を撫でてくれます。

(いいこ、いいこ、泣かないの) それを見たK君もやってきて顔を覗き込み(どうした?)と頭を撫でます。

小さな子どもたちも周りの人の様子をみて気持ちに寄り添ってくれる、そんな光景が保育園には多々あり、保育士の感動を誘います。

保育士の姿や言動が子どもの手本となることも心に止め、まず自分を大切にすると、そして周りの人に心を寄せられる気持ちや育めるよう、日々の保育に人権意識を忘れず子どもと成長していきたいと思えます。

